



学校だより

2月号
横浜市立桜台小学校
令和5年1月31日発行

教育に完成なし 故に未完成

～国会議事堂 四つの台座より～

副校長 早坂 考史

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、5月8日に2類から5類に移行することが報道されました。これに伴い、子どもたちの日々の生活はどこまで戻るのか、様々な行事や式典の対応、各教科の授業への影響はどうなるのかなど、社会状況に合わせて再び新しい生活様式の確立が予想されます。

学校でも年明けから各教室には、横浜市から提供された二酸化炭素濃度測定器が設置され、寒い冬でも十分な換気が行われているか自分たちでもチェックできるようになりました。このように引き続き安全・安心を守るための対策に努めながら、教育活動に務めてまいります。2月には、個別支援学級の岩崎小学校との「交流学習発表会」、5年生のみなとみらいホールでの神奈川フィルハーモニー管弦楽団による「心の教育ふれあいコンサート」や「スケート体験&ニュースパーク見学」、6年生の「東京見学」といった校外での行事が予定されています。

その中のひとつ、東京見学の主目的は国会議事堂の見学です。日本の政治の中心を直に見るということは、教科書で学ぶ何倍もの学習効果が期待できます。私は過去に引率者として十数回国会議事堂に行っていますが、何度行っても何人もの警察官が厳重に警備している中、私語一つできない張り詰めた空気を肌で感じながら議事堂内を回る経験は、政治には崇高性や厳粛さが必要だということを実感させられます。また、見学の前にいつも子どもたちに伝えていた国会議事堂のスポットが一つあります。それは国会議事堂の中央広間の四隅に設置された台座です。有名な話なのでご存じの方もいると思いますが、四隅のうち三か所にはそれぞれ、初代内閣総理大臣の伊藤博文、国会開設のきっかけとなる自由民権運動の立役者で日本最初の政党を作った板垣退助、日本初の政党内閣を作った大隈重信の銅像が建っています。まさに6年生の社会科で学習する政治と歴史が融合する場所なのです。そして、最後の一か所の台座の上には何もありません。「なぜ台座の上には何も無いのか」「銅像を建てるとしたら誰の銅像を建てたいか」「将来、自分の銅像を建ててもらうには何を成し遂げればよいのか」などという学習課題で話し合いを進めると、たった一つの「？」から子どもたちの興味関心を広げる学習問題へと発展していきます。ちなみに一つだけ台座の上に何も無い理由は、諸説ありますが、政治には終わりがなく常に歩み続けなければならないのでわざと四つ目の台座を完成させなかったという「政治に完成なし 故に未完成」の説が有力のようです。

現状に満足せず、常に向上心をもって取り組む姿勢は、教育にも通じるところがあると思います。人が学んでいくことに終わりはありません。飽くなき探求心を育むためには、教える側も常にアンテナを張り、社会の変化に対応し、よりよい支援方法を模索し続ける必要があります。

まさに「教育に完成なし 故に未完成」と言えるのではないのでしょうか。